

主 題：イエスの復活が教えること

聖書箇所：使徒の働き 5章29－31節

使徒5：29にはこのように記されています。「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」と、こんなことをイエス・キリストを信じる使徒たちは議会の人々に対して告げるのです。いったいどのようなことが起こったのでしょうか？簡単に説明します。イエス・キリストが十字架にかかれ、そして、約束どおりにその三日後に肉体をもって復活されました。恐れていた人たち、つまり、イエス・キリストを信じ従ってきた人たちは、そのイエス・キリストの復活を見て勇気づけられるわけです。イエスが十字架で死なれたとき彼らは勇気を失いました。これから自分たちはどうやって行くのだろう、自分たちも同じように捕らえられて殺されるのではないかと、そんな恐怖が彼らの心を支配しました。ところが約束どおりイエス・キリストが肉体をもってよみがえって来られた、そのイエスに出会ったときに彼らは変えられました。この方こそがまことの神であることを彼らは確信をもったのです。そして、彼らはそのイエス・キリストのことを人々に伝え始めて行くのです。しかし、人々はそれを聞いて、特に祭司長や律法学者や長老たちはそのことが面白くありませんでした。というのは、彼らはイエス・キリストがこの地上にいたときに、イエスを憎み十字架につけて殺したのです。そして今度は、イエスと同じことを始めた弟子たちを捕らえ厳しく懲らしめ、このイエスのことを語ってはならないという命令を再三与えるのです。ところが、使徒たちはそのような命令を聞こうとはしなかった、なぜなら、彼らは自分たちの語っているメッセージこそ真理であり、自分たちが語っているこのイエス・キリストこそ、まことの神、救い主であることを確信していたからです。だから、彼らはこう言ったのです、「人に従うより、神に従うべきです。」と。どんなに語ってはならないと脅迫を込めて命じられたとしても、私たちはそれを語らなければいけない、なぜなら、これこそ真実であると、それが彼らがここで祭司長や律法学者や長老たちに訴えたことでした。

エルサレムにあったこの議会、約70人や71人から構成されているものです。立派な人々が集まっていたのです。サドカイ派の人々、パリサイ派の人々、偉い人々が集まったその議会、そこで、何の学歴もないペテロたちが「私たちはこのイエス・キリストの復活を見たのだ、イエス・キリストはまことによみがえられたのだ」ということを大胆に、いのちがけで宣言しました。その様子を今、私たちはこの使徒の働き5章のところで見ているのです。彼らがこの宗教家たちに教えようとしたことは何だったのでしょうか？それは、

このイエス・キリストこそまことの神であること

このイエス・キリストを伝えることは先祖の神が彼らに命じたことであること です。

使徒たちは大胆に語ります。彼ら宗教家たちも一生懸命神に喜ばれようとしていたけれど、間違っていた、彼らは、イエス・キリストが救い主であることをイエス・キリストご自身が明確に語り、そのことを様々なことをもって証明したのに、信じようとしなかった、それでいて彼らは神の前に正しいことをしていると自負していた、そこで使徒たちは「あなたたちは間違っている、大きな過ちを犯したのだ」とそのことを明らかにしようとするのです。そして、彼らはこのイエス・キリストがどのようなお方であるのかということのを再びここで彼らに明らかにするのです。この議会のリーダーたちにわかってほしかったこと、それはイエス・キリストがまことの神であり、唯一の救い主であるということでした。そして、この使徒たちは特にペテロが代表してメッセージを語るのですが、三つの神がなされたみわざをもってそのことを証明して行こうとするのです。イエスがほんとうの神であり唯一の救い主であるということを、父なる神、先祖の神がなされた三つのみわざによって明らかにして行こうとしているのです。そのことを私たちは今からこのみことばを通して学んで行きます。

☆イエスがまことの神、唯一の救い主であることを明らかにする、先祖の神の三つのみわざ

1. 復活

30節に「私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。」とあります。最初に神がなされたみわざは「復活」です。イエスが十字架にかかって死んだことは、この当時の人々は知っていました。大きな出来事だったからです。皆イエスが死んだことは知っているし、そして、多くの人々はイエスがよみがえられたというメッセージを聞いていました。そこで、使徒たちはもう一度この議会のリーダーたちに対して、この復活のみわざについて教えるのです。このみわざはいったいだれがなしたわざなのか、ペテロは言います、私たちの先祖の神がなしたわざだと…。おもしろいことを言います、私たちの先祖の神と。ペテロは真っ向から彼らのことを否定したではありません

ん。ペテロはこの議会のメンバーがユダヤ人だから、そして、彼らも少なくともこの先祖の神を敬っているはずだから、その私たちが敬っている先祖の神ご自身がイエス・キリストを死からよみがえらせたのだと言ったのです。このことばの中には様々な神と名のつくものが存在することを表わしています。ローマでは皇帝が神だと言います。その中でペテロは、そういった偽りの人間が造った神ではなく、まして人間でもなく、この復活は私たちがずっと教えられてきた唯一まことの創造主なる神がなされたわがざであるということを語ったのです。復活というわがざは人間にはできないことです。人間が死からよみがえれるということ、それは私たちにはできないことです。神しか為すことはできません。

イエス・キリストのこの地上における生涯にあっても、イエスは何度も死人をよみがえらせるという奇蹟を行なわれました。なぜそのような奇蹟を行なわれたのでしょうか？その奇蹟を通してイエス・キリストが人々に教えようとされたことは、イエスがいったいだれかということです。神は私たちにいのちをくださいました。だから神なのです。いのちを造り出すことなど私たちにはできないことです。私の学生時代に無神論と主張する友がいました。私が彼に質問したことは、では、あの雑草1本でもいのちのないところからいのちを造り出すことができたなら、私は無神論を信じようと。彼は当然反論することができなかった、品種を改良することはできても、いのちのないところにいのちを造り出すことは私たちにはできないのです。それができるのはいのちの源だけです。つまり、神だけができるのです。私たちはこの世界を見たとき、そのすべてのものを造られたいのちの源である創造主なる神が存在することを見ることができます。私たちはどうしてこの世に生まれたのでしょうか？神が造ってくださった、だからあなたにいのちがあるし、あなたは世界で一人しか存在しないユニークな存在なのです。私たちは人と比較することを止めて神のことばに耳を傾けるなら、神はあなたを愛してあなたを最高のものとして造られた、そのように聖書が私たちに教えているのです。あなたや私は神によって造られたものです。その神が私たちにいのちを与えてくださり、これまでというそのときまで地上の生活を続けるのです。そのような神によって私たちは造られた、そして、このイエス・キリストが人を死からよみがえらせるという奇蹟をもって、イエス・キリストにはいのちがあること、イエスはいのちを与えることができる方、いのちの源である方、すなわち神であるということを明らかにされたのです。

このイエス・キリストの復活のことを見たとき、ペテロが教えるように、私たちの先祖の神がイエス・キリストをよみがえらせたのだと、それが神が人々に教えられたことでした。イエス・キリストご自身もそのことを話しておられたからです。死ぬ前からこれから死にますと言われた、そして、死んで終わるのではなく三日後にわたしは死から敢然とよみがえると言われたのです。もし彼がふつうの人間で、創造主なる神に逆らっているなら、神はそのようなみわがをなすことはなかったのです。しかし、イエスのしていることすべてが神に喜ばれているゆえに、父なる神はイエス・キリストが言ったように、敢然と三日後にその死からよみがえらせたのです。そこで、ペテロはこのことを教えたかった、分かっただけでよかったからです。よみがってきたイエスは仮死状態にあったものではありません。ほんとうに死んでいたのです。それが三日経ってよみがえってきたというのは、先祖の神がなされたわがざだと、だから、私たちは語らなければならない、このメッセージを語ることが神の前に正しいのだということを、ペテロは初めに教えたのです。

2. 高举

二つ目にペテロが教える神のみわがは「高举」です。31節には「**そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。**」とあります。

「このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました」とこれはだれがなしたのか、この先祖の神です。この先祖の神が、十字架で死んだイエスをよみがえらせただけでなく、天に上げて、そして彼に父なる神の右の座につく特権を与えたと言うのです。何のことでしょうか？聖書の中でこの「右」というのは名誉と権威の場所です。神の右の座についたというのは、神の名誉と権威の場所についたのだということを意味しているのです。誤解してはならないのは、神はイエス・キリストをその死からよみがえらせて、そして、天のご自分の右の座に着座させた、神がそのような場所にふさわしくないイエスをそのような場所に引き上げたということではありません。その場所こそイエス・キリストにふさわしい場所だったのです。それは、イエスがヨハネの福音書17章でこのように祈っておられるところがあります。「**今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。**」（17：5）、世界が存在する前からごいっしょにいてと、だれといたのでしょうか？父なる神とです。持っていたあの栄光で輝かせてくださいと、どのような栄光でしょうか？神としての栄光です。子なる神としての栄光です。父なる神、子なる神は唯一まことの神です。すなわち、イエスがここで言われたことは、彼は神であったということです。その栄光を捨てて人となってこの世に来てくださったのです。そして、この地上での働きを終えたから、再び、持っていた栄光でわたしを輝かせてくださいと言うのです。それが起こったのです。だから、イエスは父なる神の

あわれみによって父なる神の右の座に着座して、その場における栄光や名誉を得たというのではないのです。その栄光はもともと彼のものであり、彼にふさわしいものなのです。なぜなら、イエス・キリストはまことの神だからです。

ここでペテロは「**このイエスを君とし**」と言いました。このことばは新約聖書の中に4回出てきます。使徒の働き3：15とヘブル2：10では、このことばは「いのちの源」また「救いの源のキリスト」であるとその意味で使われています。すなわち、いのち、また、救いの源なるキリストを表わしているのです。今私たちが見ているこの使徒5：31では支配者、王としての働きを指しています。また、導き手と訳すこともできます。つまり、このイエス、よみがえって天に引き上げられたこのイエスは、すべてのものに優るお方であり、すべてのものを治めておられる主権者であり王である、そして、そのような働きをなしておられるということをペテロは語るのです。このイエスに優る存在はないのです。サタンも彼に付き従った悪霊たちも、だれ一人としてこのイエスに優る存在はありません。イエスは神だからです。

ペテロはまた「**救い主として**」と言っています。救いを与えることができるものとしてと言います。彼は天に凱旋して行ったのです。つまり、イエス・キリストが十字架で死んでそれで終わったなら、救い主ではなかったのです。世の中には良い話をしてくれる人はたくさんいます。しかし、私たちをその罪から完全に救い出してくださる方はこのイエスしかいないと言うのです。なぜそうなのでしょう？この国にはたくさんの宗教があります。私たちはその中の何かと関わってきました。でも、あなたの罪の身代わりとなって十字架で死なれた方は他にいないのです。あなたに立派なことを教えてくれる教師はたくさんいるでしょう、ああ有難かったというような教を説かれた立派な方はたくさんいるでしょう。しかし、あなたのために十字架で死んでくださった方はいないのです。しかも、あなたのために死んでくださったお方というのは、あなたを造られた神です。あなたを造った神は、あなたがこれまでどんなことをしてきたのか、実際の行動面においても、心の中においても、想像においても、そのすべてのことを知った上でなおあなたを愛して、あなたの身代わりとなって十字架でああなたの罪のさばきを代わって受けてくれたのです。このような方は存在していません。

今でも、いろいろな国では実際に十字架にかかるようなことをこのイースターの時期にする人々がいます。だから、言ったのです、イエスが十字架で死んでそれだけだったらイエスはただの人です。しかし、三日後によみがえられたこの復活という事実が明らかにしたことは、このイエス・キリストこそが救い主だということです。なぜなら、復活というのは神の領収書です。神がもうイエスの死で十分、あなたや私の罪を赦すためにイエスはいのちを捨ててくださった、それで神はもう納得された、満足されたのです。だから、イエスはよみがえってきたのです。私たちはレストランに行って食事をすれば請求書もらい、お金を払うと領収書もらいます。もうお金は払ったということです。イエスが死からよみがえってきたというのは、神が私たちに領収書を示してくれたのです。もう罪の代価は払われた、あなたの罪は完全に赦されたという証拠です。こんなすごい神がおられるのです。そこまで私たちを愛してくださる方がいるのです。2000年前にそれが起こったのです。そして、2000年経った今も、私たちはその方の復活を祝うのです。なぜなら、復活によってこの方だけがほんとうの救い主であることが明らかになったからです。だからペテロは言うのです、この方は主権者であり支配者であり王であり、すべてに優っているお方であり、この方だけが救い主であると。

ペテロはこのようなことを付け加えます。31節「**イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、**」と記されています。確かに、2000年前イエス・キリストを十字架に追いやったのはユダヤ人でした。彼を十字架にはりつけにしたのはローマの兵士たちでした。そして、その人たちがまだ生きていたその時代において、ペテロはそのような罪は赦されるのだということを教えたのです。大変な罪を犯したけれど、神はそれを赦してくださるということを教えたのです。そのために、ペテロはこの人々の罪を明らかにしました。「**あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを**」と30節でペテロは言っています。ペテロは敢えてそのように説明を加えたのです。「あの死んだイエスが」とは言わなかった、だれが十字架にかけたのか、だれに責任があるのか、あなたたちです！と言うのです。つい最近、イエスの十字架を扱った映画が放映されました。あの映画は恐らくクリスチャンでない人が見ても「重い暗い映画」という感想しかなかったことでしょうか？あの映画が作られて、その監督がアメリカの有名な朝の番組でインタビューを受けました。そのインタビュアーは彼にこんな質問をするのです、「だれがイエスを十字架にかけたのか、ユダヤ人なのか？」と。監督が答えたことは「それはあなたや私だ」と、この監督はそのことが分かったからそのための映画を作りたいとしたのです。ペテロもこの議会のリーダーたちに教えたかったのです。あなたたちは大きな罪を犯したと。もちろん、ペテロも自分もその中の一員であることを良く知っています。でも、彼が語ったメッセージはだれがイエスを十字架にかけたのか、それはあなたなのだと、その罪を明らかにしたのです。

「イエスを十字架にかけて殺した」と、なぜ人々はそのようなことをしたのでしょうか？もう一度、そのときのシーンに戻ってみると、人間というのは常に自分を優先するのです、神に従うよりも自分の思い通りに生きて行きたい者です。自分の人生なんだからと。確かに、この議会の人々は宗教熱心でした。しかし、よく考えてみるとそれは自分を満足させるだけのものでした。なぜなら、自分のやっていることが本当に神の前に喜ばれるのかどうかとは考えない、私たちもそうです、今まで私たちが崇拝してきたものが正しいのか間違っているのかと考えない、それでいい、こうしていろいろな行為を行なっているから、儀式を守っているから、先祖から伝わっていることを守っているからそれでいいと私たちは思うのです。それがほんとうに神に喜ばれることなのかどうか真剣に考えないのです。この当時の人々は救世主を待望していました。しかし、彼らが待っていた救世主というのは自分勝手な救世主でした。ローマによる圧制から、その抑圧から解放を求めた彼らは、ローマからの救世主を求めたのです。罪からの救世主ではなかったのです。ですから、彼らの問題というのは、神に聞き従って行こうというのではなく、自分の思い通りに生きて行きたいとその願いが常にあるのです。だから、彼らは心を開こうとしないのです。いったい何が真理であり何が真実であるかということを考え求めようとしません。

イエスはこのようなことを言われました。「**1:54 あなたがたは、西に雲が起こるのを見るとすぐに、『にわか雨が来るぞ。』**と言い、**事実そのとおりになります。:55 また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』**と言い、**事実そのとおりになります。:56 偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。**」（ルカ 12：54－56）と。このように天気の様子を見分けることができるあなたがたは、なぜ自分から進んで何が正しいのかを判断しないのかと問われたのです。なぜあなたが手を合わせている存在が本当の神なのかどうかと考えないのかと。私たち日本人はそのことを考えません。信心の心さえあればいいのだと、だれがそんなことを言ったのでしょうか？もし、それが真実でなければどうなるのでしょうか？あなたが崇拝しているものはあなたを罪から救ってくれるのでしょうか？あなたを間違いなく天国へ入れることができるのでしょうか？天国へ入れるのはその罪が赦された人だけです。では、あなたの信じているものがあなたに罪の赦しを与えることができるのでしょうか？そのような質問をすると、私たちが考えること、また、私たちが答えることは「わからない」です。そんな難しいことは分らないと。それを訳するなら「わたしは考えたくありません」です。自分の人生ですから、自分の好きなように生きて行きますと言い、神に従う意志などないのです。だから、人々はイエスの奇蹟を見ても信じようとしません。なぜなら、それは彼らが信じたくないからです。耳を傾けようとしません、心を開こうとしないのです、もう十分だ、もういいと言うのです。それゆえに彼らはこの邪魔者を早く消してしまおうとし、イエスを十字架につけて行くのです。30節に「**あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを**」と記していますが、新改訳聖書はあえて「十字架」とこのギリシャ語を訳しています。でも、もともとこのことばの意味は直訳するなら「木」です。「木」ということばを訳者は「十字架」としたのです。ここに原語で「木にかけて殺した」と記しているのは意味があるのです。それを見るとき私たち人間が創造主なる神、イエスに対して何をしたのかが明確になるのです。つまり、「木にかける」というのには意味があるのです。旧約聖書の申命記にこのようにあります。21：23「**その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならぬ。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。**」と。人々はイエスを十字架につけました。人間は神に対してそのような扱いを行なったのです。イエスを汚れたものとして、イエスを神に対して罪を犯した罪人として十字架にはりつけたのです。でも、そこにはりつけられる人は神からののろわれた人でした、神の前に罪ある人でした。このイエスには十字架にはりつけにされて神にのろわれたものとして殺される、また、殺さなければならぬ大きな罪があるのだと、それが人々の主張したことでした。創造主なる神にこのような行為を人間は行なったのです。こんな仕打ちをもって神に応えたのです。パウロはガラテヤ人への手紙でこのように言います。3：13「**キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべてののろわれたものである。』**と書いてあるからです。」と、つまりパウロは、神からののろわれて神のさばきを受けなければならない罪人は、イエスではなくてあなたや私だと言うのです。「**律法ののろい**」というのは、私たちは神の命じていることにことごとく逆らっている、私たちの考えることも想像することも行なうこともすべてにおいて完璧ではない、だから、神に逆らうものは神の審判を受けるに値するものである、すなわち、神によってのろわれたものであるということです。罪を犯しているのは私たちです。ところが罪のない方が、神にのろわれることなどない正しいお方が、私たちのその罪を負ってのろわれたものとなってくださって十字架で死んでくださったのです。神は喜んでそのことをしてくださったのですが、人間の側からこの行為を見たときに、この聖い正しい神に対して人間が行なったことは、彼を忌み嫌い悪事の限りをつくし、聖い罪のない方を汚れている、十字架で死ぬべきだ、十字架こそふさわしい罪人だと言って十字架に追いやっていったのはあなたなのだと、ペテロはこの議会のリーダーたち

に言うのです。これが人間のしたことでした。救い主である神に対してしたことはこうだったのです。しかし、ペテロは言います。あなたたちはこのように扱ったけれど、神はこのイエスを死からよみがえらせ、神の右の座に着座させたと。

人間が行なったこのような罪、これはイスラエル人だけの罪ではありません。まさに私たち自身の姿をここに見るのです。ペテロはこの議会のリーダーたちに言いました。あなたがたがイエスを十字架にかけて殺したのだと。イエスを十字架にかけて殺したのは彼らだけではありません。私たち皆です。なぜなら、罪を犯したのは私たちではありませんか！神に聞き従って行こうとしないで、自分勝手な生き方をしようと選択したのは私たちです。人に見つからなければ何をしても構わないと罪を選択してきたのは私たちです。すべてのことを見ておられる聖い神の前に罪を重ねているのは私たちです。

そのことを教えた後、ペテロは言います。あなたは神に対してこのような大きな罪を犯した、けれど、神はそのようなあなたに希望を与えようとされたと。どのような希望でしょう？ 31節「**そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、**」です。感謝です！これほどの罪を犯した人間に対して神は、「**そして神は、イスラエルにさばきを下そうと、**」とは書いていないのです、なおも神は赦しの御手を差し伸べているのです。この希望はイスラエル人だけのものではありません。私たちにも同じように希望が与えられています。何度も言いますが、神はあなたのすべての罪を知った上であなたをなお愛して、あなたの罪を赦そうとしてくださっているのです。今日、神はこの救いをあなたに与えようとしてくださっているのです。だから、あなたはこの場に來たのです。そして、このメッセージを聞いたのです。これは私が作り出したことではなくて聖書自身が私たちに語るメッセージです。あなたの罪を赦すと神は言われている、そのために、どうすればいいのでしょうか？このみことばが私たちに教えてくれます。「**イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与える**」、あなたは今、あなたを造った創造主なる神の前に、あなたが逆らってきたこのまことの神の前に、自らの罪を悔い改めることです。

「神さま、私は間違っていました、私の罪を赦してください、これまで私はあなたより自分を優先してきました、あなたに逆らって生きてきました、私は今日それを止めます、今日から私はあなたを私の神と信じあなたに従って行きます。」

これが悔い改めです。方向を変えるのです。生き方を変えるのです。神に逆らってきた生き方を止めて神を信じて従って行く生き方に変わることです。そして、このイエス・キリストをあなたの救い主と信じ、あなたの神と信じて従って行くのです。その信仰によってあなたはこの瞬間に救われるのです。特別な行ないをしたから神は救ってくれるのではありません。このみことばを見ても神はどこにもあなたの働きをすれば残りは神がしてくれますとは教えていません。神がすべてのことをもうしてくださったのです。罪を赦し救ってくださるのです。あなたがそのことを求めるなら…。なぜなら、イエス・キリストはよみがえることによって、すべての主権者、救い主となられたから、この方はあなたを救うことができるのです。あなたのすべての罪を完全に赦すことができるのです。そのことをペテロはここで議会のリーダーたちに教えるのです。高く上げられたイエス、この方だけがあなたのすべての罪を完全に赦すことができるお方なのだ、この救い主に帰って来なさい、この救い主から救いをいただくようにと、彼は教えるのです。そして、三つ目のしるし、三つ目の神のみわざというのは、

3. 聖霊の注ぎ

今日のテキストには入れなかったのですが32節を見てください。「**私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。**」と、聖霊が与えられたこと、聖霊の注ぎが、このイエスがまことの神であることを明らかにしているというのです。どういう意味でしょう？イエスはヨハネの福音書14章でこのように言われています。「**わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。…**」(14:16-17)と、つまり、イエスは『わたしはこれから十字架にかかって死んで行くが、身代わりとなって死ぬわけだが、わたしはあなたがたにひとつの約束を与える、聖霊なる神を与える、その神が信じた一人ひとりの心の中に住んでくださる』と言うのです。それが約束でした。そして、ペテロはその聖霊なる神は來られたと言います。使徒の5:32にあるように、「**神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊**」、すなわち、信じる者たちにお与えになった聖霊と、約束は成就したことを言っているのです。そのことの証人ですと、イエスが言っていたことが真実であるということです。イエスがまことの神だということです。

これがペテロの語ったメッセージです。皆さん、何という救い主がおられるのでしょうか！こんな救い主がいてくださるのです。あなたの地上の人生がどれだけ続くのか私たちにはわかりません。だから、神が言われるように、神に会う備えをしないさいと、その日がいつ来るかわからないけれど、神に会う備えをしないさいと。神はあなたのすべてを知った上であなたにさばきを警告しておられるからで

す。どんな小さな罪でも神はご存じであり、そして、あなたにそれをさばくと警告しておられるのです。逃れることはできません。相手は神なのです。しかし、それらをすべて知った上であなたに救いを与えてくださるのも神です。この方の前に今救いを求めて出て来てください。なぜ、このようなすばらしい救いが備えられているのにそれを無視し続けるのでしょうか？「わからない」とか言い訳をして、せっかく神が与えてくださっている救いのチャンスを逃さないでください。もしかするとあなたには今日が最後のチャンスかもしれない、あなたは来年も、あと10年も20年も生きると思っているかもしれない、けれど、今日が最後のチャンスかもしれないのです。罪の赦しは与えられます、それをあなたが望むなら…。今日この瞬間に与えられます、それをあなたが心から求めるなら…。しかし、その選択はあなたがしなければならぬのです。

復活なさったまことの神であり、あなたを完全にその罪から救い出すことのできるイエス・キリストをあなたの救い主として信じてください。そして、このすばらしい祝福を今日あなたのものにしてお帰りください。それを神はあなたに望んでおられるのです。そのためにイエス・キリストはこの世に生まれ、あなたの身代わりとなって十字架で死に、そして、敢然と死からよみがえって来たのです。生けるまことの神、イエス・キリストをあなたの神として、あなたの救い主として信じて、この神からの救いを今日いただいでください。そのことを心から願います。